

企画展

エメラルドフォレスト

— 磯野宏夫の生命の森 —

5. 25 (土) ~ 7. 7 (日)



©HIROO ISONO

磯野宏夫氏は日本をはじめ、アマゾンやアフリカ大陸など世界各地の森林地帯を巡り、森林を描きました。自然への憧憬があふれた手書きによるイラスト原画を紹介します。

特別展

没後25周年 曾宮一念

9. 21 (土) ~ 12. 1 (日)

曾宮一念は東京美術学校を卒業し、文展や二科展で入賞するなど日本洋画界の重鎮として活躍しました。伸びやかで力強い線と大胆で美しい色で描かれた絵画は明治以降の日本の油彩画の指標であるだけでなく、曾宮一念の大きな特徴でもありました。生まれながらの色彩感覚による作品を油彩画や水彩画で紹介いたします。



不尽 鈴与株式会社蔵

企画展



清水港開港120周年記念事業

第1室

興津 水口屋と
西園寺公望

第2室

缶詰ラベルと
蘭字

7. 13 (土) ~ 8. 4 (日)



西園寺公望 書

大正5~7年にかけて西園寺公望は興津の水口屋へ逗留し、これが坐漁荘を建設する契機となりました。以降、西園寺を訪ねる政財界の重鎮が水口屋を利用し、昭和32年には昭和天皇の行在所となりました。

昭和4年に開発されたマグロツナ缶詰は翌年にはアメリカに向けて輸出が始まり、これが静岡・清水の缶詰産業の草分けとなりました。缶詰産業史とともに缶詰ラベルや輸出用茶箱ラベルの蘭字も紹介します。



缶詰ラベル

企画展

絵で見る船の歴史

12. 7 (土) ~

— 船の科学館コレクションより —

2. 2 (日)



遣唐使船
谷井建三画
船の科学館蔵

日本の海洋画家による歴史的な船や港、海の絵画に模型を加えながら日本の船の歴史を紹介していきます。

企画展

輸出された 静岡の寄木細工と漆器

8. 10 (土) ~ 9. 16 (祝)

協力：金子皓彦氏

駿府では江戸から明治時代にかけて、寄木細工と漆塗りで仕上げられた華麗な家具や調度品が作られました。海外に輸出されたこれらの漆器を一堂に紹介します。



花鳥図文箱 (静岡・明治時代)
提供：横浜市歴史博物館

企画展

平戸藩と松浦党 — 平戸松浦藩の至宝 —

2. 8 (土) ~ 3. 29 (日)

協力：松浦史料博物館



長崎県の平戸は江戸時代初めにオランダやイギリスの商館が置かれた西洋文化の窓口でした。藩主の松浦氏は中世の水軍の中では唯一大名となり、明治維新を迎えました。平戸藩の大名道具とともに、元となった水軍「松浦党(まつらとう)」の関係資料や、潜伏キリシタン資料を含めて紹介します。

松浦資始所用具足 松浦史料博物館蔵

ギャラリーコーナー

4・5月 カトウマキ (透明水彩画)①

6・7月 一柳綾乃 (日本画・アクリル画)②

8・9月 白鳥日和子 (イラスト)③

10・11月 萩原亜美 (水彩画・アクリル画)④

12・1月 藤原俊 (油彩画)⑤

2・3月 HARANO (アクリル画)⑥

